

第11回 KG神奈川ビジネス交流会 ご報告

日時: 2018年(平成30)8月25日(土) 13:30~

開催場所: 波止場会館 (横浜市港湾労働会館) 4階大会議室
横浜市中区海岸通り1-1

記録的な猛暑が続く中を合計25名の同窓が集いました。今回の会場は『波止場会館』、世界の人々を迎える横浜港の玄関口である『大棧橋 国際客船ターミナル』のすぐ手前にある施設で開催しました。会議室からは大棧橋や赤レンガ倉庫などの観光スポットが一望でき、講演や討議の合間に聞こえる船舶からの汽笛がすばらしいBGMとなりました。

第1部 (前半)

◆ 代表世話役によるオリエンテーション (山田清)

◆ 基調講演

① 檜原雄一さん (1972 商学部)

(株)株式会社長谷川 顧問

② 三宅建嗣さん (1975 商学部)

(株)エフピーマネジメント事務所 代表

③ 井谷善恵さん (1979 文学部)

東京藝術大学 グローバルサポートセンター 特任教授

檜原さんからは、日本の産業を支える石油会社でのグローバルな勤務経験をプレゼンして頂きました。年功序列、チームワーク重視、サービス残業などに象徴される伝統的な日本企業に就職した後に、海外勤務や外資との提携・M&Aにより激変した職場環境での体験を経て、定年退職後のセカンドキャリアをカンボジアで日系企業と現地企業のBtoBマッチングのコンサルタントとして前職とは全く異なる職種で活躍するに至った人生ドラマを披露頂きました。

三宅さんからは、20歳代での2回の転職経験をもとに大手事務機メーカーの営業組織での極めて優れた成果と昇格昇進を得た背景・秘訣を語って頂きました。目標達成に必要なPDCAサイクル、論理的思考力(ロジカル・シンキング)、そして、Entrepreneurship(起業家精神)やコーチングによって得られる『気づき』の重要性を解説頂きました。加えて、学生時代からの趣味であるJAZを現在に至るまで『My Life』として継続し、仕事と両立させる知恵・工夫も『人生100年時代』を生き抜く教訓として解説頂きました。

井谷さんからは、十代をアフリカ・中近東・ロンドンで暮らし、KGを卒業後、40才を過ぎてKG、ロンドン大学、オックスフォード大学で修士・博士号を取得するに至った背景及び研究テーマを解説頂きました。専門分野である近代輸出工芸史、異文化交流史を漆工芸品や繊維織物の現品の回覧と合わせてのわかりやすい話やアジア・欧州での現地調査の写真は受講者の高い関心を集めていました。女性の学者としてキャリアを高める上での障害の克服(ジョーカーをエースに!)の経験・教訓の話も極めて示唆に富む内容でした。

第2部(後半)

◆ グループディスカッション

6~7名単位の小グループで自己紹介や基調講演に対する質疑応答などを行いました。

その他(特別出演)

茨城支部から小山欽一郎さん(昭和54・社会)が参加され、同支部の活動の様子をスライド上映頂きました。神奈川支部同様に県内在住者限定の組織ではなくKG同窓にはOPENなので主催行事への出席、大歓迎との事です。

グループ討議で紹介された推薦図書

『直島誕生』(ディスカヴァー・トゥエンティワン、秋元雄史著)

瀬戸内海の小さな島が世界から注目される現代アートの拠点・聖地となった背景を仕掛け人の秋元雄史氏(東京芸術大学美術館・館長)が語っています。

『アガサ・クリスティーとコーヒー』(いなほ書房、井谷善恵著)

イギリス=紅茶の認識が一変するかも! アガサ・クリスティーはコーヒー好きで、その作品にはコーヒーに関する記述が多く、事件の鍵を握っていたりもします。

『なまけ者のさとり方』(PHP文庫、タデウス・ゴラス著)

つらい時、苦しい時、途方に暮れた時に心の迷いを晴らしてくれる、世界一やさしい人生のガイドブック。アメリカの片隅で生まれ、多くの人に読み継がれた50万部のベストセラーが日本に上陸して17年、ロングセラー待望の文庫化です。「さとる」とは、どういうことなのでしょうか? それは、すべてを受け入れ、愛するということなのです

『未来の年表 人口減少日本でこれから起きること』(講談社現代新書、河合雅司著)

少子化、高齢化、人口が減って自治体が消滅するなど言われていますが、この本にはわかりやすく日本の未来像が包括的に整理されています。人口動態学(デモグラフィ)は最も良く未来を見通す道具といわれていますが、見通した結果を変えるのはとても難しい。未来の年代の自分や家族の年齢とあわせて読む

と、いろんなことを考えさせられます。日本はいつまで国家でいられるのでしょうか。インフラを維持できず縄文の森に戻った日本の観光資源が「絶滅危惧種の日本人」になる日が来そうです。

『スギナの島留学日記』（岩波ジュニア新書、渡邊杉菜著）

真っ先に消滅しそうな島根県隠岐諸島の中ノ島の海士(あま)町にある県立島前高校に兵庫県から留学した渡邊杉菜さんの体験記。この町の山内道雄町長(2018年5月退任)は消滅しそうな自治体の未来に灯りを燈す試みを実践して全国から注目されました。(例えばこのようなとりくみとしては、新潟県の粟島村は小中学生の留学を受け入れる「しおかぜ留学」をはじめています。)町長は替わっても海士町の取り組みは続いています。HPは⇒ <http://www.town.ama.shimane.jp/>

『僕たちは島で、未来を見ることにした』（株式会社巡の環、阿部裕志・信岡良亮著）

トヨタ自動車を退職して上記の海士町で起業した阿部裕志さんのストーリー。地元で溶け込み、人との繋がりを活かし予想外の展開にもっていく人間力。すこしも儲かりそうなことはやっていないし、しんどそうだけれど倒れずに継続しています。留学生がUターンしても、地元の若者がUターンしても、地域が経済的に自立し発展できなければ未来はおぼつかない。でもそれは容易ではないことがかえってよくわかります。

『負けんとき・ヴォーリス満喜子の種蒔く日々』（新潮社、玉岡かおる著）

関学&神戸女学院のキャンパス、大丸百貨店、近江兄弟社(メンソレータム)、同志社のカレッジソングなどで有名ですが、NHKドラマ「あさがきた」の広岡浅子、大山捨末(元帥婦人)、津田梅子、貞明皇后(大正皇后)などの明治から昭和に至る著名人との交流や歴史背景が克明に記述されています。第二次大戦を日本国籍を取得して満喜子夫人と苦難の日々を国内で乗り越えたヴォーリス夫妻の素晴らしい歴史です。

懇親会

- ◆ 波止場会館の1階にあるラウンジ『SALA』で約2時間歓談しました。JAZのライブ会場としても使用される店で、全員が順番にマイクを持っての1曲披露はありませんでしたが、第1部の自己紹介の続編を楽しく行いました。

次回の予定

来年の1～2月に開催予定です。交流会の企画運営やプログラムについての皆様からのご意見・提案をお待ち致しております。基調講演のスピーチ、あるいは交流会の運営サポート(世話役)も大歓迎です。

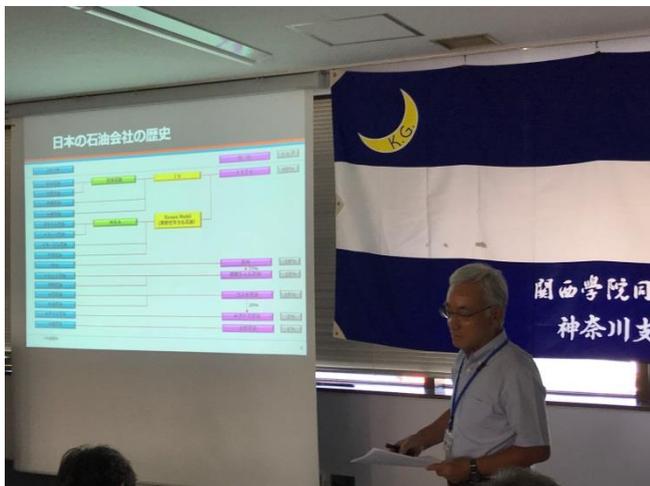
個人情報保護の観点から氏名・組織名称等の固有名詞を本報告にて全て記述できないのが残念ですが、読者の皆様も交流会に参加され『生情報』に接し、発言・発表頂く事をお待ちしております！

御願い（交流会会場の借用）

横浜&東京都区内で借用可能な無料あるいは安価な会議スペースを探しています。横浜は土曜日の午後、東京は平日の水曜あるいは金曜日の5:30～9:00PMです。皆様の勤務先・取引先で利用可能な安

価な会議室、あるいは長時間の貸切可能な飲食店の情報があれば情報提供を御願います。

基調講演（梶原さん）



基調講演（三宅さん）



基調講演（井谷さん）



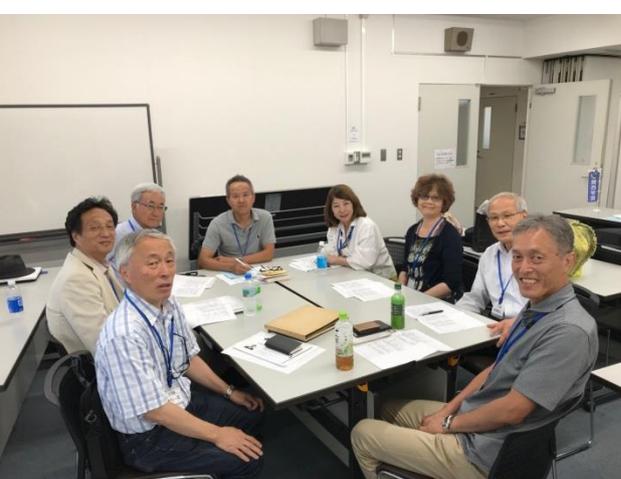
茨城支部（小山さん）



グループ討議 A班



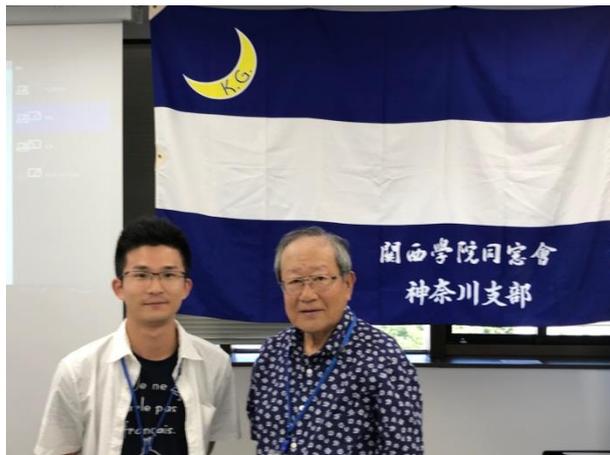
グループ討議 B班



グループ討議 C班



昭和31年vs平成29卒 61年間の世代ブリッジ



集合写真



懇親会 (波止場会館1階・シーサイドラウンジ『SaLa』)



波止場会館 全景



波止場会館・会議室からの遠景



波止場会館・会議室からの遠景(大栈橋)

